



2020年2月 NO.2
合同会社 I アンド S
福岡市中央区大名2-10-2B503
TEL092-791-1498 Fax092-791-1641

「あおり」2類型追加 改正法案 通常国会に提出へ

M法相は、自動車運転処罰法が定める危険運転致死傷の処罰対象となる運転行為に、新たに2類型を加える要綱案を法制審議会（法相の諮問機関）に諮問した。走行中の車両の前で停車するなどして通行を妨害する行為を危険運転を規定し、社会問題化した「あおり運転」の厳罰化を図る狙い。「あおり運転は悪質で、厳罰化を求める国民の声も高まっている。実態に即した厳罰整備の検討をお願いしたい」と述べた。

要綱案で示された2類型は、いずれも通行妨害目的で車道上に停車する行為を危険運転とみなす内容。

一つは、走行する車両の前方で停車したり急減速したりして接近する行為。急な車線変更で割込み、急ブレーキをかける状況などを想定している。もう一つは、高速道路など自動車専用道路で、車線上に停車するなどして走行中の車両を停止または徐行させる行為。道路交通法で駐停車が禁じられている道路でのこうした運転は、第三者を巻き込む重大事故につながる危険があるとしている。

危険運転致死傷は、飲酒運転などの危険な運転で人を死傷させた場合に成立する。現行法の規定には、幅寄せなどのあおり運転も含まれるが「重大な交通の危険が生じる速度で走行中」との速度要件があり、適用できる範囲が限定的とされる。

東名高速の夫婦死亡事故は、被告のあおり運転によって追い越し車線上に停止させられた夫婦の車に後続のトラックが追突した。1、2審ともにあおり運転と事故には因果関係があるとして危険運転致死傷の成立を認めたが、法務省は法改正が必要と判断した。

振り込め詐欺 依然高水準「カードすり替え型」増加

県警は、振り込め詐欺の2019年県内被害統計を発表。

認知は279件、被害額は6億7754万円で18年の396件、8億2791万円より減少したが、依然高水準。特に「キャッシュカードすり替え型」の被害が増加。

カードすり替え型の被害は統計を始めた18年は37件・5664万円。19年は75件・1億1785万円と倍増した。主な手口は①犯人が警察官や金融庁職員などを名乗り「あなたの口座が不正利用されている」と電話し、被害者宅を訪問②「確認作業する」と言って被害者からカードを受け取り、被害者に印鑑を取りに行かせるなどの隙に、封筒に入れた別のカードとすり替える。

犯人側は暗証番号も聞き出してお金を引き出すが、発覚を遅らせるため「数日後に再訪するので封筒を開けないで」と被害者に言うケースも多いという。また、似たような手口で被害者を信用させ、カードを取っていく被害も増えた。

全体では被害者の73%が女性、69%が65歳以上だった。ただ架空請求詐欺は10代も含む幅広い年代で被害が出た。被害者の携帯電話に「有料サイトの未納料金があり、本日中に連絡がないと訴訟になります」とメールが届き、メールにある番号に電話すると、電子マネーの購入を指示されだまし取られるものが多い。県警の担当者は「自分は被害に遭わないと過信せず、不審に思ったら警察や周囲に相談を」と話している。

ひきこもり支援 警鐘

ひきこもり状態の人の自立支援をうたう都内業者に自宅から連れ出され、軟禁されたなどとして、関東地方の30代女性と母親が業者側に慰謝料など1700万円をもとめた訴訟。東京地裁は、母親に450万円、女性に55万円を支払うよう命じる判決を言い渡した。

判決によれば、自立支援をうたう「エリクシルアーツ」の代表の男性と職員らが2015年9月、女性のマンション玄関のチェーンロックをバールで壊して侵入。女性を千葉、埼玉の両県内のアパート寮へ移し、携帯電話や現金も預かった。女性は同意書を作成した一方、警察に駆け込んだが、職員に連れ戻された。

判決は、業者が同意なく自宅に入った行為を管理権の侵害と認定。寮生活について「他の場所に自由に移転できる環境になかった」と認めた。同意書も「真意に基づくものではなかった」とした。一方、女性が主張した職員からの暴行や脅迫は「客観的証拠がない」と認めなかった。

女性は当時、ひきこもり状態ではなかったが、家族関係に悩んだ母親が約570万円を支払い業者と契約。判決は、業者が女性に事前聴取せず、職員に医療や福祉の有資格者もいなかったことなどから支援業務は不十分だったと判断。母親が求めた契約不履行による損害を認めた。

こうした業者は「引き出し業者」と呼ばれ、複数の損害賠償請求権が進行中。家族会や支援団体からは法規制を求める声が上がっている。

三菱電機にサイバー攻撃

三菱電機は、大規模なサイバー攻撃を受けて、個人や取引先の政府機関、企業に関する情報が外部流出した可能性があることが明らかになった。防衛関連や電力、鉄道などの機密性の高い情報は流出していないことを確認したと説明している。本社などのパソコンやサーバーに不正アクセスを受けた形跡があった。

昨年、国内のサーバーなどの機器に不審な動作を発見。社内調査を実施し、本部・事業本部の大半や本社の管理部門で不正アクセスが見つかった。

政府が受けた報告によると、三菱電機の採用応募者や社員に関する個人情報、営業や技術関連情報などが外部流出した可能性があるという。

更生テーマ映画「しゃぼん玉」

罪を犯した若者が人々と交流する中で立ち直っていく様子を描いた映画「しゃぼん玉」の上映が福岡刑務所（宇美町）であった。受刑者36人が講堂で鑑賞し、外部から招かれた協力雇用主ら約70人がその様子を見学した。

受刑者の社会復帰に向けて刑務所が実施している「一般改善指導」の一環。映画上映は福岡刑務所では初。しゃぼん玉は、作家・Nさんの小説が原作。宮崎県の村を舞台に、ひたくりなどを繰り返してきた若者が村人との温かい触れ合いを通して自分の罪に向き合うようになる物語。受刑者らは約1時間50分の映画にじっと見入っていた。

受刑者の男性は「社会で生活する上で孤独になることは一番つらい。支えてくれる人に感謝して生きていかなければいけない」と感想を話した。プロデューサーのTさんは「この映画で、自分が変われば周囲も変わってくれるということが伝わればいいと思っています」と語った。

